

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 多治見市立多治見中学校における実践

< 授業実践 >

授業実践に向けての構え

- ・高等学校との授業交流を進めていく中で、単元や単位時間での付けたい力と、その評価規準をより明確で、より具体的なものとする授業改善を図る。
- ・高等学校との連携を深めていく中で、高等学校が望む、中学校で付けるべき発展的な力を明確にできるよう、系統的な学習指導を探る。
- ・実践的なコミュニケーション能力の育成のために、単元や単位時間の中での、「話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと」の配置を見直し、バランスよく実施すると共に、特に「読むこと、書くこと」に重点をおいた指導を行う。

第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年7月10日(月)

【公開授業】

- ・単元名 New Crown English Series 3 Do It Talk 2 『飲み物はいかかですか?』
- ・授業学校・学年 多治見中学校 3年
- ・主な提案内容

生徒が意欲的に取り組み、実践的コミュニケーション能力を養う言語活動の工夫
付けたい力(話す 書く)とその評価規準をより具体的で明確にした指導援助の工夫

【授業研究会】

- ・本時で身に付けさせたいコミュニケーションを図ろうとする態度や、活用させたい表現を精選することによって、生徒にとってその単位時間で取得すべき技能や、用法が焦点化され、定着が図られた授業であった。
- ・生徒が実際にすすめたいCD(音楽)と飲み物を用いて、コミュニケーション活動をさせることで、意欲的な学習が図られた。しかし、ペアや全体でのパターンプラクティスによる指導の際に、基礎的な単語や表現方法を、さらに定着させたり、より発展的な内容を取り入れたりするように援助をすべき生徒がいた。多様な集団を指導しなければならないが、どの生徒にも対応できる指導を工夫していかなければならない。

第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年10月25日(水)

【公開授業】

- ・単元名 New Crown English Series 3 Lesson 5 『Place to Go, Things to Do』
- ・授業学校・学年 多治見中学校 3年
- ・主な提案内容

生徒が意欲的に取り組む実践的言語活動の工夫
付けたい力とその評価規準をより具体的で明確にした指導援助の工夫

「話すこと、聞くこと」「読むこと、書くこと」によって、学習内容がより定着する指導の工夫

【授業研究会】

- ・授業の課題『プレゼンテーション活動のレベルアップ』を生徒達の中から引き出すことができたため、その課題を達成するために、ひたむきに活動に取り組む姿が印象的であった。
- ・昨年度の研究授業(1年次)の実践と比較して、「後置修飾を用いた英文5文以上の完全暗記」という授業の実践で、生徒の力が、かなりレベルアップした様子が見受けられた。
- ・学習形態や学習プリントの工夫をしたことにより、生徒が主役となり、個々のプレゼンテーションのレベルアップを生徒が自覚し、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

- ・生徒の前向きな姿や、生徒主体の授業、生徒自身がレベルアップしたいという願いをもって、活動する姿が見受けられたのは、必然性のある課題であったために、活動の目的や方法が明確であったこと、暗記にこだわることで、パネルの活用や、コミュニケーション活動の基本である、アイコンタクトに意識が向けられたこと、仲間からのアドバイスや評価が、レベルアップの方向性につながる“生きた”ものであったこと、によるものである。
- ・プレゼンテーションをするならば、相手に「驚き」「発見」「疑問」「納得」のいずれかを、抱かせなければならない。本時の授業では、確かに意欲的に発表する姿勢が見られたが、発表を聞いて「仲間に自分の言いたいことを、わかってもらった」、「仲間は内容をきちんと理解して、聞いてくれている」という満足感や達成感が弱い。聞き手のフィードバックを、活動の中に位置付けていく必要がある。

【実際の授業の流れ】

～『紹介する地域』～

(北アメリカ：自由の女神 / 南アメリカ：ナスカの地上絵
 アフリカ：ピラミッドとスフィンクス / ヨーロッパ：ノイシュヴァンシュタイン城)

ステップ1 発表用原稿1 (文法を中心に添削)

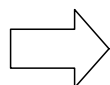
情報シートを参考 (情報のある程度限定)



ステップ2 発表用原稿2 (発音・強勢・区切りを中心に添削) 暗記チェック



ステップ3 発表用パネル (発表時に活用)



～ 授業研究会 (プレゼンテーション レベルアップ練習・発表) ワークシート ～
同じ国 (地域) の小グループで練習 / 発表



< グローバル・スタンダードによる英語力分析調査 >

【期日】 平成18年8月22日

【受験者数】 スターターズ... 26名 ムーバーズ... 20名 フライヤーズ... 10名

【結果分析】

- ・各レベルのセクション毎の結果を世界平均と比較すると、特にスピーキングの項目において、今後さらに指導を充実させる必要があることが分かる。「読むこと、聞くこと、書くこと」の学習活動が、「話すこと」につながっていくような授業を、目指していかなければならない。
- ・リーディングやライティングは、スターターズを中心として、世界平均に近づくようになってきた。しかし、レベルが上がるにしたがって、リスニングの結果が思わしくなくなっていく。授業の中で英語を「話すこと、読むこと、書くこと」について活動する機会だけでなく、「聞くこと」について活動する機会を多く設ける。またその際も、まとまった英文を聞き取る力を養うことができるようなカリキュラムや、授業そのものの改善を行っていく。

< 学習環境の充実 >

学習教材の購入

語彙を増やしたり、各種英語検定の受験を促したり、また多様な興味から英語に慣れ親しんだりすることを目的として、各種問題集やコンピュータを用いて問題演習が行うことのできるコンピュータソフト、DVD映像ソフト、簡単な英語の歌のCDソフト、リスニングトレーニング用のCDソフトなどを充実させた。また、それらを休み時間に活用できるようにし、貸し出して自宅でも活用することが可能となるようにした。

外部講師の活用

選択教科の基礎コースを中心に、英語に苦手意識をもっている生徒を対象として、実践的コミュニケーション能力を身に付けつつ、会話表現を中心に、基礎的な語彙や語順がさらに定着する授業を、2月上旬に実施した。

< 成果と課題 >

今年度は、「話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと」の4領域の重点を、単元毎に設定するカリキュラムから、すべての単元で4領域をバランスよく配置するカリキュラムへの改善を行った。つまり、各単元で、「話すこと、聞くこと」を中心とした、コミュニケーション活動を実施したあとに、その内容をさらに定着させるために、「書くこと、読むこと」の活動を意図的に仕組むようにしたのである。また語彙や語順を定着させていくために、基礎的な単語を品詞毎にピックアップし、家庭学習を中心に、英語を苦手とする者にも、基礎的な単語を書く力が定着するよう取り組んだ。それらの結果、「英語を話すことはできるが、書くことができない生徒」の数が減り、「書くこと」に対して、抵抗のある者が少なくなってきた。しかし、その書く力が、授業の中の実践的コミュニケーションに十分還元されていない。それゆえ今後は、語彙や語順、表現の定着を今以上に徹底し、生徒に自信をつけさせたいうえで、実践的なコミュニケーション活動が、生徒の主体的な活動になるよう指導・援助を行っていく。

授業では、課題の必然性をもたせるために、活動の目的(なぜ、その活動を行うのか?)、活動の方法(どのように、その活動を行うのか?)、活動のゴール(その活動で、自分がどのような姿になればよいのか?)を、教師が事前に明確にもち、生徒にも十分理解させることが必要である。また、生徒が活動のゴールで充実感を得るために、コミュニケーション活動の最中や活動後

に、自分の伝えようとしたことが相手に伝わったという実感を相手から得ることができるように、活動や評価の方法をさらに研究していきたい。

